



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 190 号 2019 (令和元年) / 5

祝！京橋港復活

■ 4月26日からの第4回瀬戸内国際芸術祭に合わせて、京橋港から犬島・牛窓に向けて京橋クルーズの期間限定定期船が就航する。まさに50余年ぶりの京橋港復活である。思えば京橋朝市も京橋港復活を願って30年前の平成元年に始まったわけで、感無量のものがある。

■ホバークラフト京橋就航運動と岡山未来デザイン委員会設立

岡山市の中心を流れる旭川、その旧山陽道との交差点に京橋はかかっている。私の住む三黽学区に接する位置にある。昭和60年8月、瀬戸大橋架橋に伴い廃止される予定の国鉄ホバークラフトを、岡山市南部の岡山港まで走らせようという計画を知った私は、岡山市中心部の京橋港にまで就航させれば、衰退がはじめた中心部の表町商店街の活性化につながると考え、長野知事や伊原木商工会議所会頭、当時の国鉄四国総局に提案を行った。

■この提案は、京橋が岡山城下町形成の臍の位置にあるとの歴史認識から、現代にその陸上交通と河川交通の結節点をつくり、10kmほど内陸にある岡山を瀬戸内海に開かれたものにしようと考えたのである。私の幼い頃、ここから船に乗って海水浴に行った記憶が原点にある。提案後昭和61年7月に試運転したものの、実現しなかった。しかしこれを契機にまちづくりグループ「岡山未来デザイン委員会」が設立され、この後の岡山のまちづくりに大きな影響を与えることになる。

■内田百閒顕彰から京橋朝市へ

昭和61年秋建築家やデザイナーのチーム25が岡山で初めての西川フリーマーケットを開催。未来デザイン委員会も参画した。また分科会的に昭和62年5月京橋より少し上流、古京町出身の文学者・内田百閒の顕彰運動を始め、その後計24回の故郷阿房列車の運行が開始される。百閒はその著書で京橋の過去の賑わいについて語っており、我々は京橋復活を明確に意識し始めた。「京橋にもフリーマーケットが欲しい」との現実行委員長・大島正勝の言葉を契機に、平成元年9月には



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



京橋朝市が創設される。私達には当初から京橋へのこだわりがあった。

■京橋朝市の根回しもまず地元町内会からはじまった。当初受付スタッフ4人はみな百閒顕彰メンバー。最初は岡山県と岡山市の補助をもらったが、毎回のテント張りなどスタッフはすべて地元町内会のボランティア。毎月第一日曜と年末の年13回開催で、今年5月には第387回を数える岡山有数のイベントに成長した。毎回数万人が訪れ、市民にすっかり定着した感がある。朝市の本部テントはあたかもサロンと化し、選挙では朝市をスタートする候補が順番待ちをするのが当たり前となっている。百閒を調べていたら「昔は市場だった」と気がつき、説得は実に楽だった。ラクダも平成7年に設立されるがこれも未来デザイン委員会の分科会だ。

■第1回瀬戸芸開催に向けて、島会結成、京橋アート村、京橋犬島試験運行

平成22年の第1回瀬戸芸開催に向けて、我々は京橋港から犬島までの新航路模索をはじめた。そのため平成20年2月から京橋朝市で「京橋アート村」を開催、さらに京橋朝市とRACDAを中心として「島会」を結成し、平成21年7月5日には小型船をチャーターして京橋から犬島への試験運行を敢行した。だが事業採算的に厳しく、水深の浅い京橋を遡行してくれる事業者は現れず、数度の試験運行にとどまった。その後も様々な団体が京橋港復活に意欲をしめし、試験的運行のチャレンジはあったものの、実現には至らなかった。

■ラクダでは第3回瀬戸芸以降、西大寺・邑久から犬島・牛窓への観光ルート10万人計画を策定した。西大寺・犬島・牛窓の立地条件を考えれば、瀬戸芸期間だけでなく瀬戸内海観光の回遊性拡大は地域に大きなインパクトになるだろう。犬島精錬所美術館に年間2万人、瀬戸芸プラスで1万人の観光客が来るのに、犬島には宿泊施設がなく、牛窓にはホテル・ペンションが立地。西大寺から牛窓へバス2ルートが存在、JR赤穂線の利便性は高い。アクセスが有りながら活用されていないし、宣伝広報もされていない。こうした中で去年のめぐりん西大寺参入と両備バス路線廃止騒動が勃発！瀬戸芸にとって頼みの綱の宝伝線も廃止の危機に陥り、我々のお尻に火がついた。

■折しも牛窓市民グループ、奉還町市民グループ、牛窓のホテルリマー二と天満屋、表町グループ、瀬戸内市などが京橋港と犬島・牛窓を繋ごうとアクションを起こしたことがわかった。長年京橋港復活を期して様々な活動を展開してきた我々としては、オール岡山で実現して欲しいとの気持ちから、接着剤に徹して動きを見守り、多少の調整もしてきた。その過程では岡山市東区・瀬戸内市の有志議員を含むゆるやかな連携協議会を設立をめざして、西大寺ワークショップを開催し、両備バスの東区役所乗入れといううれしい副作用も出た。犬島牛窓を元気にするためには、西大寺にも頑張ってもらいたいという思いからだ。

■瀬戸芸にあわせて発行する「備讃瀬戸アクセスマップ」では、西大寺駅・邑久駅から牛窓・犬島方面の電車バス船の接続情報を大幅に強化した。JR赤穂線については岡山から赤穂の全便を掲載し、西大寺駅・邑久駅（牛窓接続）・長船駅（刀剣博物館）・伊部駅（備前焼）・日生駅（小豆島航路）の時刻も掲載した。瀬戸芸だけでなく、刀剣や備前焼といった地域のアートを鑑賞して欲しいとの思いからだ。こうしたアートを繋ぐルートの要が、実は京橋港となるのである。さらにこの時刻表は生活交通の利用に耐えるよう、関係バスルートも全便掲載した。瀬戸芸を契機に、平日は生活交通、土日は観光交通としてバスルートが存続した代表事例が小豆島にある。（ラクダ会長 岡将男）

